学校だより
しゅんりん

令和８年１０月１日（木）
第６号

相模丘中学校



「その先へ…」

校長　松平 康隆

季節は少しずつ、本格的な秋に向けて進んでいるようにも感じます。

さて、去る９月24日（木）、「空前絶後～百花の先へ～」のスローガンのもと、J:COMホール八王子を会場に、相中祭文化の部を実施することができました。当日は、たくさんの皆様のご来場をいただき、誠にありがとうございました。

今年の文化の部は、シルバーウィーク直後ということ、またインフルエンザ流行の影響などにより、生徒のみなさんにとって十分な準備時間と環境が用意されていたとは言いがたい状況の中で取り組みが進められました。しかし、各学年の実行委員さんたちを中心に少ない練習時間を有効に使い切ろうとする姿勢が随所に見られ、無事立派に、当日のステージを迎えることができました。

限られた時間の中で、生徒のみなさんは自分たちの思いをその歌に込め、ひとつのことをみんなで形にしていくことを経験しました。実行委員や指揮者、伴走者、パートリーダー、審査員など、役割を担う生徒さんたちを中心に、様々な工夫を凝らして練習を重ねてきました。そうした取り組みからは、自発的に、自分たちの手で行事を成功させるために考えようとする姿勢が感じられ、仲間たちのことを大切にしようとする思い、学校生活をもっと充実させたいという思いが感じられました。当日の各学年の学年合唱、学級合唱はどれもとても素晴らしいステージとなり、すべてのクラスが最優秀賞に値する、自分たちだけの宝物のようなひと時を手にすることができたものと考えております。自分たちの頑張りを誇りに思い、仲間を大切に思い、全校生徒が互いの存在を認め合える、生徒のみなさんにとって、文化の部はそんな機会となったことと思います。

先生方も、当日を迎えるまで様々な思いを胸に、生徒のみなさんの活動を支えてきました。文化の部当日、発表を終えたクラスの担任の先生方は「本当に素晴らしかった。」「素敵な合唱をきかせてもらうことができた。」と熱のこもった口調で語り、バックステージにいる実行委員の生徒さんや係の先生方は、閉会式の裏で感動の涙をこぼす、思い起こすだけで、今でも胸が熱くなります。

間違いなく、今年もこの文化の部を通じて、生徒のみなさんは素晴らしい体験を手にしたものと確信しています。生活を取り巻くあらゆる場面で、物事に主体的に取り組む心と、そして人に向けるやさしさを、発揮していってほしいと思います。

閉会式の中で、両部門の実行委員長さんからの言葉が述べられ、相中祭のバトンは体育の部へと引き継がれました。文化の部の実行委員さんたちは、「これまで文化の部に協力してもらった。今度は、私たちが体育の部の強力なフォロワーとなって後押ししていこう。」と語ってくれており、こんなにも心強いことはなく、また、生徒のみなさんの心の成長を感じずにはいられません。

そして、今年はもう一つ、生徒総会を機に提案された「大地讃頌プロジェクト」があります。コロナ流行期以来、取りやめとなっていた伝統の全校合唱「大地讃頌」をもう一度と、熱意をもって実践にこぎつけました。例年、文化の部が終わってしまうと、合唱練習の声が聞こえなくなって少し寂しく感じてきたものですが、今年は、「大地讃頌」の美しい歌声を、これからも聴くことができます。「One school, one sound!」相中生らしいみずみずしい心とそのエネルギーを力にかえて、卒業式に向けた大合唱の復活を、今から楽しみに待ちたいと思います。**※写真は、ホームページに掲載されています。**







令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果より

※この調査は、４月２１日（火）・２３日（木）に３年生を対象に実施されました。

学習状況の分析

教科名　国語　平均正答率･･･全国：６３．９／相模丘中学校：６４．０

（１）結果の概要

・記述問題には難があったが、比較すると、全１５問題中，１０問題で全国の正答率と同等、もしくは正答率を上回ることができた。

・特に、話し合いの発言について説明したものとして適切なものを選択する問題では、正答率が非常に高く全国平均を大きく上回った。

・また、文章の展開の意図を説明したものとして適切なものを選ぶ問題においても、高い正答率を示した。

・以上の結果から、生徒が思考して自分の考えを他者に伝える、意見の共有を中心に据えた授業展開をしていたことが、話し合いの発言の意図を読み取ることに繋がったと考えられる。

（２）課題

・「書くこと」の問題において、３問題中、２問題が全国の正答率を下回った。無解答率は県平均、全国平均よりも低いものの、必要となる条件を満たすことができていない解答が多く見受けられた。

・特に、条件が①～③と複数になるほど、ひとつの条件を満たすだけで満足し、問題を正確に把握せず、必要な条件が欠けている状態で記述している解答が目立った。

（３）課題の改善に向けて

・指示された条件の下で自分の考えを書くことが困難だったため、授業の中で、単元の内容を踏まえながら記述する力を身に付けさせる。

・特に、単元の振り返りや主題について記述する場面で、必要な条件を満たして文章にする機会を充実させていく。

教科名　数学　平均正答率･･･全国平均５７．０／相模丘中学校：５２．０

（１）結果の概要

・全体的な傾向として、「数と式」、「データの活用」の領域では全国平均とそれほど差異はなく、「数と式」の領域で事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てる力を問う問題では全国平均を上回った。

・しかし、知識・技能を問う問題における「関数」の中の「反比例」の問題で、全国平均を１０ポイント程度下回った。また、思考・判断・表現を問う問題では、「数と式」「図形」「関数」いずれも記述式の問題で大幅に全国平均を下回った。

（２）課題

・知識・技能を問う問題に関しては、基礎基本は身についているものの、「反比例」についての理解が乏しい。また、思考・判断・表現については、思考または判断することはできる

ものの表現することが難しい。特に、数学的な用語を用いて論理的に筋道を立てて表現することに課題がある。

（３）課題の改善に向けて

・数学は積み重ねの教科であることから、特に「関数」の領域では、「反比例」に関して正しい知識や計算力を身に付けられるように特化した演習問題を行う。
・また、基礎基本を演習で習慣づけ、それを活用する文章題を用いて、事象を数学的に捉える時間を増やし、その内容を数学的な用語を用いて論理的に表現する機会を増やす。
・さらに、生徒自らが授業の手立てに則って学習が進められるよう授業改善に努めていく。

教科名　英語　全国平均 IRT スコア４９９／相模丘中学校平均の IRT スコア５１３

（１）結果の概要

・「聞くこと」には難があったが、比較すると、全１６問題中、９問題で全国の正答率を上回ることができた。
・特に、読んだことから適切なグラフを選ぶ問題では、正答率が非常に高く全国平均を大きく上回った。また、話し手が一番伝えたいこと（要点）を選ぶ問題においても、高い正答率を示した。
・「書くこと」では、他者に物事を説明する類似問題において、自分の考えや意見、感想を伝えることができており、いずれも高い正答率を示した。
・「話すこと」においては、７問題すべてにおいて全国平均を圧倒的に上回り、非常に高い正答率を示した。
・以上の結果から、目的・場面・状況に応じて、生徒が思考し、自分の考えや意見をアウトプットすることを中心に据えた授業展開が身を結んでいると考えられる。

（２）課題

・「聞くこと」の問題において、５問題中、３問題で全国の正答率を下回った。ポイントとなる英文を最後まで正確に聞き取ることができておらず、誤答を選ぶケースが散見された。特に、話題に上がった物事に関して、会話の詳細を聞き取れていなかった。
・また、自分にとって必要な情報を聞き取る問題では、自分の置かれた状況を正確に把握しておらず、聞き取った容易な単語のみを手掛かりに解答するケースが目立った。
・「読むこと」「書くこと」においても、問題によって高い正答率を示す反面、必要な情報や理由を問う問題において、正答率が低かった。

（３）課題の改善に向けて

・「聞くこと」「読むこと」の問題において、必要な情報を入手することに難が見られたため、授業の中で、自身の状況を踏まえながら、正確に英文を捉えられるようにしていく。特に行事や公共交通機関などを題材にしながら、必要な情報を入手する活動を実践していく。
・「書くこと」においては、普段の授業の中で、目的・場面・状況を捉え、即興的に自分の考えや意見、理由、感情などが表現できるよう取り組んでいくとともに、文章構成力を育んでいく。
・「話すこと」に関しては、今回の結果を励みにし、引き続き、生徒が話す必然性を高めながら、自分の考えや意見を伝え合う授業を大切にしていく。

質問紙調査から見えてきたこと

（１）本校の状況

○昨年度までと同様、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した生徒は、全国平均を上回っている。

○「学校に行くのが楽しい」と感じている生徒の合計は 86.6%に達し、学校生活を良好なものに感じている生徒が多いことがうかがえる。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」生徒が全国平均より依然としてかなり少ない。

●平日のスマートフォン・ゲーム等の利用時間が「4 時間以上」という生徒が 43.6%と、全国平均を上回っている

●家庭での学習に ICT 機器を「全く使っていない」生徒が 30.2%存在している。

（２）結果から見えてきたこと

○学級運営や行事に向けた取り組み、委員会や部活動などの自治活動の充実により、学校が安心できる場所となることにつながっている。また、人と関わることに前向きな生徒が多い。

・他者貢献の意欲が 9 割を超え、「学校が楽しい」という安心感の土壌となっている。

・話し合いで考えを深めたり、協力して課題を解決したりする傾向が極めて高い。

・他者の意見を尊重し解決策を求める割合も 8 割を超え、集団で高め合う質が向上している。

●ICT 活用の実態と課題

・平日 4 時間以上の長時間利用が 4 割を超えており、多くが動画視聴等の受動的な利用に費やされている。

・検索など情報収集ができる（73.2%）に比べ、情報の加工・整理スキル（33.6%）は全国平均並みに留まり、高度な活用に結びついていない。

・ICT スキルが家庭での「学びのための活用」にいかされていない。

・悪循環の継続： 突出したスクリーンタイムが、昨年度からの課題である「就寝時刻の遅さ」や「朝食欠食」を助長している可能性が極めて高い。

（３）今後に向けて

【 学校での取り組み 】

・豊かな人間関係と高い規範意識を強みに、生徒主体の自治や対話を通じて「共に学び、他者を深く理解する姿勢」を深化させる。

・長時間の ICT 機器利用を「受動的な消費」から「創造的な活用」へと転換させるために、学習での ICT 活用を進める。

【 ご家庭でご協力いただきたいこと 】

・睡眠時間の確保に向け、「スマートフォンを寝室に持ち込まない」「夜○時以降はリビングで充電する」などスマートフォン等の利用に関する物理的な家庭ルールの再確認をお願いします。

・塾や部活で忙しい生徒が無理なく生活できるよう、「宿題や就寝のタイミング」を可視化し、適切な生活リズムをつくるサポートをお願いいたします。